数理計画法 第2回

2. 1 線形計画問題と

その標準形

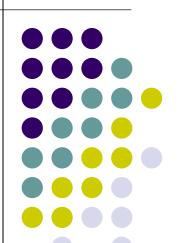
2. 2 双対問題

担当: 塩浦昭義

(情報科学研究科 准教授)

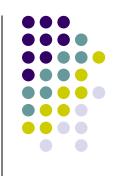
shioura@dais.is.tohoku.ac.jp

http://www.dais.is.tohoku.ac.jp/~shioura/teaching/mp08/



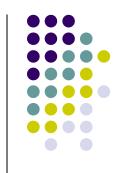
今日の講義の流れ

- 不等式標準系, 等式標準系
- 双対問題
- LPの諸定理



2. 線形計画

2.1 線形計画問題とその標準形



線形計画問題(LP)の定義

●目的関数が線形関数,制約式も線形式の最適化問題

目的は「最大化」「最小化」
どちらでもよい

最大化
$$2x + 2y + 3z$$

条件 $5x + 3z \le 8$
 $2z = 2$
 $4y + z \ge 9$
 $x, y \ge 0$

制約式は「≧」「=」「≦」 どれでもよい

制約式は 「不等号つき」「不等号なし」 どちらでもよい

LPの不等式標準形

- 任意の形のLPを扱う のは面倒
- ⇒ 不等式標準形

- ◆目的は最小化
- ◆制約式は「左辺≧右辺」の形
- ◆各変数は非負

最小化
$$c_1x_1+c_2x_2+\cdots+c_nx_n$$

条件 $a_{11}x_1+a_{12}x_2+\cdots+a_{1n}x_n \ge b_1$
 $a_{21}x_1+a_{22}x_2+\cdots+a_{2n}x_n \ge b_2$
 $a_{m1}x_1+a_{m2}x_2+\cdots+a_{mn}x_n \ge b_m$
 $x_1 \ge 0, x_2 \ge 0, ..., x_n \ge 0$

不等式標準形への変形



命題2.1:任意のLPは不等式標準形に変換できる

次の4つの変換法を利用

【式の同値変形】 等式を二つの不等式で表現

$$\sum_{j=1}^{n} a_j x_j = b \quad \Longrightarrow \quad \sum_{j=1}^{n} a_j x_j \leq b, \quad \sum_{j=1}^{n} a_j x_j \geq b$$

【目的関数の-1倍】最大化から最小化へ

最大化
$$\sum_{j=1}^n c_j x_j$$
 最小化 $-\sum_{j=1}^n c_j x_j$ 最小化 $-\sum_{j=1}^n c_j x_j$ 【制約の -1 倍】 不等式を " \leq " から " \geq " へ

$$\sum_{j=1}^{n} a_j x_j \leq b \qquad \qquad -\sum_{j=1}^{n} a_j x_j \geq -b$$

不等式標準形への変形

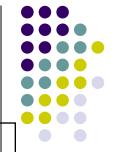


【差による表現】

非負制約のない変数を2つの非負変数で表現

$$x_{j}$$
 (非負制約なし) $x_{j} = x_{j1} - x_{j2}, x_{j1} \ge 0, x_{j2} \ge 0$

不等式標準形への変形の例



条件
$$x + y = 1$$

$$x \ge 0$$



最大化
$$3x + 2(y_1 - y_2)$$

条件
$$x + (y_1 - y_2) = 1$$

$$x \ge 0, y_1 \ge 0, y_2 \ge 0$$

条件
$$x + (y_1 - y_2) = 1$$

$$x \ge 0, y_1 \ge 0, y_2 \ge 0$$

最小化
$$-3x - 2(y_1 - y_2)$$

条件
$$x + (y_1 - y_2) \leq 1$$

$$x + (y_1 - y_2) \ge 1$$

$$x \ge 0, y_1 \ge 0, y_2 \ge 0$$

最小化 -
$$3x - 2(y_1 - y_2)$$

条件
$$-x - (y_1 - y_2) \ge -1$$

$$x + (y_1 - y_2) \ge 1$$

$$x \ge 0, y_1 \ge 0, y_2 \ge 0$$

「差による表現」による変形の妥当性



【差による表現】

変換前の問題:P₁

変換後の問題:P2

P1とP2は本質的に等価

● (s₁, ..., s_i, ..., s_n): P₁の許容解

(
$$s_1$$
, ..., s_{j1} , s_{j2} , ..., s_n): P_2 の許容解, 目的関数値同じただし $s_{j1} = s_j$, $s_{j2} = 0$ ($s_j \ge 0$ のとき) $s_{j1} = 0$, $s_{j2} = -s_j$ ($s_j < 0$ のとき)

例: (x, y) = (3, -2) は x + y = 1, x ≧ O を満たす

$$\Rightarrow$$
 (x, y₁, y₂) = (3, 0, 2) は x + (y₁ - y₂) = 1, x, y₁, y₂ \ge 0 を満たす

「差による表現」による変形の妥当性



【差による表現】

変換前の問題:P₁

変換後の問題:P2

P1とP2は本質的に等価

● (t₁, ..., t_{i1}, t_{i2}, ..., t_n): P₂の許容解

例: $(x, y_1, y_2) = (2, 1, 2)$ は $x + (y_1 - y_2) = 1$, $x, y_1, y_2 \ge 0$ を満たす $\Rightarrow (x, y) = (2, 1 - 2) = (2, -1)$ は x + y = 1, $x \ge 0$ を満たす

等式標準形

- ◆目的は最小化
- ◆制約は等式
- ◆各変数は非負

最小化
$$c_1x_1+c_2x_2+\cdots+c_nx_n$$

条件 $a_{11}x_1+a_{12}x_2+\cdots+a_{1n}x_n=b_1$
 $a_{21}x_1+a_{22}x_2+\cdots+a_{2n}x_n=b_2$
....
 $a_{m1}x_1+a_{m2}x_2+\cdots+a_{mn}x_n=b_m$
 $x_1 \ge 0, x_2 \ge 0, ..., x_n \ge 0$



等式標準形への変形



命題2. 2:任意のLPは等式標準形に変換できる

- 任意のLPは不等式標準形に変換できる(命題2.1)
- 不等式「左辺≧右辺」を等式へ

$$\sum_{j=1}^{n} a_{ij} x_{j} \ge b_{i} \quad \Longrightarrow \quad \sum_{j=1}^{n} a_{ij} x_{j} - x_{n+i} = b_{i}, \quad x_{n+i} \ge 0$$

新しい非負変数 x_{n+i} を利用 (スラック変数)

$$4x_1 - 3x_2 + x_3 \ge -1$$

 $x_1 \ge 0, x_2 \ge 0, x_3 \ge 0$



$$4x_1 - 3x_2 + x_3 - x_4 = -1$$

 $x_1 \ge 0, x_2 \ge 0, x_3 \ge 0, x_4 \ge 0$

双対問題

LPの最適値を下から見積もりたい (最適値の下界値の計算)

最小化
$$-2x_1 - x_2 - x_3$$

条件 $-2x_1 - 2x_2 + x_3 \ge -4$ ①
 $-2x_1 - 4x_3 \ge -4$ ②
 $4x_1 - 3x_2 + x_3 \ge -1$ ③
 $x_1 \ge 0, x_2 \ge 0, x_3 \ge 0$

制約を足し合わせてみる

- •目的関数≥②×3+③= $2x_1$ $3x_2$ $11x_3$ ≥ 13
- •目的関数 \geq ①×0.5+②×0.5= 2 x_1 x_2 1.5 x_3 \geq 4



双対問題

$$1 \times y_1 + 2 \times y_2 + 3 \times y_3$$

左辺:
$$(-2y_1 - 2y_2 + 4y_3)x_1 + (-2y_1 - 3y_3)x_2 + (y_1 - 4y_2 + y_3)x_3$$

$$-2y_{1} - 2y_{2} + 4y_{3} \le -2
-2y_{1} - 3y_{3} \le -1
y_{1} - 4y_{2} + y_{3} \le -1$$

最小化
$$-2x_1 - x_2 - x_3$$

条件 $-2x_1 - 2x_2 + x_3 \ge -4$ ①
$$-2x_1 - 4x_3 \ge -4$$
 ②

$$x_1 \ge 0, x_2 \ge 0, x_3 \ge 0$$

 $4x_1 - 3x_2 + x_3 \ge -1$ (3)

双対問題



最も大きな下界値を求めたい⇒新たなLP

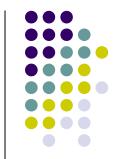
最大化
$$-4y_1 - 4y_2 - y_3$$

条件 $-2y_1 - 2y_2 + 4y_3 \le -2$
 $-2y_1 - 3y_3 \le -1$
 $y_1 - 4y_2 + y_3 \le -1$
 $y_1 \ge 0, y_2 \ge 0, y_3 \ge 0$

もとの問題に 対する 双対問題

もとの問題・・・・主問題

主問題と双対問題



主問題

$$a_{21}x_1 + \cdots + a_{2n}x_n \ge b_2$$

$$a_{m1}x_1+\cdots+a_{mn}x_n \ge b_m$$

$$x_1 \ge 0, ..., x_n \ge 0$$

双対問題

最大化
$$b_1y_1+b_2y_2+\cdots+b_my_m$$

条件
$$a_{11}y_1 + a_{21}y_2 + \cdots + a_{m1}y_m \le c_1$$

$$a_{12}y_1 + a_{22}y_2 + \cdots + a_{m2}y_m \le c_2$$

$$a_{1n}y_1 + a_{2n}y_2 + \cdots + a_{mn}y_m \le c_n$$

$$y_1 \ge 0, y_2 \ge 0, ..., y_m \ge 0$$

最小化
$$c^{\mathsf{T}}x$$

条件
$$Ax \ge b$$

$$x \ge 0$$

行列表現

条件
$$A^{T}y \leq c$$

$$y \ge 0$$

主問題と双対問題



性質:双対問題の双対問題は主問題に一致する

証明→レポート問題

- 手順(1)双対問題を不等式標準形に書き換え
 - (2)書き換えた問題の双対問題をつくる
 - (3)得られた双対問題を変換するともとの問題に一致することを確かめる.

等式標準形の双対問題



• LPの等式標準形

最小化
$$\sum_{j=1}^{n} c_{j} x_{j}$$
 条件 $\sum_{j=1}^{n} a_{ij} x_{j} = b_{i}$ $(i = 1, 2, ..., m)$ $x_{j} \ge 0$ $(j = 1, 2, ..., n)$

不等式標準形に

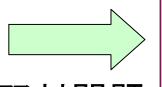


最小化
$$\sum_{j=1}^{n} c_{j} x_{j}$$

条件 $\sum_{j=1}^{n} a_{ij} x_{j} \ge b_{i}$, $-\sum_{j=1}^{n} a_{ij} x_{j} \ge -b_{i}$ $(i = 1, 2, ..., m)$
 $x_{j} \ge 0$ $(j = 1, 2, ..., n)$

等式標準形の双対問題





双対問題 をつくる

最大化
$$\sum_{i=1}^{m} b_{i} y_{i}' + \sum_{i=1}^{m} (-b_{i}) y_{i}''$$
 条件 $\sum_{i=1}^{m} a_{ij} y_{i}' + \sum_{i=1}^{m} (-a_{ij}) y_{i}'' \le c_{j}$ $(j = 1, 2, ..., n)$ $y_{i}' \ge 0$, $y_{i}'' \ge 0$ $(i = 1, 2, ..., m)$

最大化
$$\sum_{j=1}^{m} b_{i} y_{i}$$
 条件 $\sum_{j=1}^{m} a_{jj} y_{i} \leq c_{j}$ $(j = 1, 2, ..., n)$

y_i' - y_i"を 非負制約なし変数 y_iに置き換え

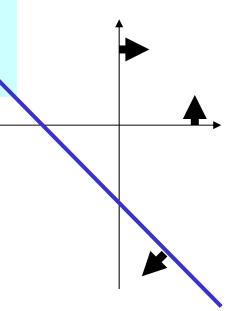
等式標準形のLPに対する双対問題

諸定理 - LPの基本定理

定義:不等式標準形のLPに対し

- 実行可能⇔許容解が存在する
- 実行不可能⇔許容解が存在しない

実行可能 (1,1)は許容解 最小化 x + 2y 条件 -x - y ≥ 1 x, y ≥ 0 実行不可能



LPの基本定理(その2)

定義: 実行可能なLPは(最小化の場合)

- 有界 ⇔ 任意の許容解の目的関数値が ある定数より大きい
- 非有界 ⇔ 目的関数値をいくらでも小さく出来る

有界

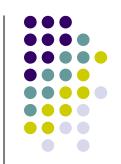
目的関数値≧O

非有界

任意の $\alpha > 0$ に対し (α, α) は許容解目的関数値= -2α



LPの基本定理(その3)



定理2.1(基本定理)

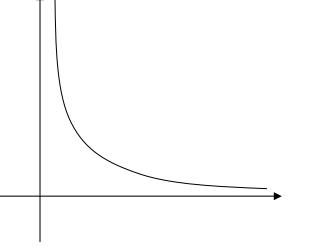
任意のLPに対し、

実行可能かつ有界 ⇒ 最適解が存在

※非線形計画の場合は成り立つとは限らない!

最適值=O

でもy=0なる許容解はない



弱双対定理(その1)



定理2.2(弱双対定理)

x: 主問題の許容解, y: 双対問題の許容解

$$\sum_{j=1}^{n} c_{j} X_{j} \geq \sum_{j=1}^{m} b_{j} Y_{j}$$

主問題の目的関数値

双対問題の目的関数値

弱双対定理(その2-証明)





$$\sum_{j=1}^{n} c_{j} x_{j} \ge \sum_{j=1}^{n} \left(\sum_{i=1}^{m} a_{ij} y_{i} \right) x_{j} = \sum_{i=1}^{m} \left(\sum_{j=1}^{n} a_{ij} x_{j} \right) y_{i} \ge \sum_{i=1}^{m} b_{i} y_{i}$$

条件

$$a_{1}x_{1}+\cdots+a_{1n}x_{n} \geq b_{1}$$

$$a_2 x_1 + \cdots + a_{2n} x_n \ge b_2$$

- - -

$$x_1 \ge 0, ..., x_n \ge 0$$

条件
$$a_{11}y_1 + \cdots + a_{m1}y_m \le c_1$$
 $a_{12}y_1 + \cdots + a_{m2}y_m \le c_2$
 $a_{1n}y_1 + \cdots + a_{mn}y_n \le c_n$

$$y_1 \ge 0, ..., y_m \ge 0$$

弱双対定理(その3一系)



系2.1

主問題が非有界 ⇒ 双対問題は実行不可能 双対問題が非有界 ⇒ 主問題は実行不可能

証明: 対偶 (双対:実行可能⇒主:有界) を示す 双対問題が実行可能と仮定

 \mathbf{y} : 双対問題の許容解、 $\alpha = \Sigma b_i y_i$ 弱双対定理より、主問題の任意の許容解 \mathbf{x} に対し

 $\Sigma c_i x_i \ge \alpha$. 主問題は有界

弱双対定理(その4一系)



系2.2

x: 主問題の許容解, y: 双対問題の許容解

$$\sum_{j=1}^{n} c_{j} x_{j} = \sum_{i=1}^{m} b_{i} y_{i}$$

⇒ x: 主問題の最適解、y: 双対問題の最適解

証明→レポート問題

弱双対定理(定理2.2)を使って証明すること

弱双対定理(その5一系)



例2.3

最小化
$$-2x_1 - x_2 - x_3$$

条件 $-2x_1 - 2x_2 + x_3 \ge -4$
 $-2x_1 - 4x_3 \ge -4$
 $4x_1 - 3x_2 + x_3 \ge -1$
 $x_1 \ge 0, x_2 \ge 0, x_3 \ge 0$

最大化
$$-4y_1 - 4y_2 - y_3$$

条件 $-2y_1 - 2y_2 + 4y_3 \le -2$
 $-2y_1 - 3y_3 \le -1$
 $y_1 - 4y_2 + y_3 \le -1$
 $y_1 \ge 0, y_2 \ge 0, y_3 \ge 0$

$$-2 \times 2 - 0 - 0 = -4 = -4 \times (3/5) - 4 \times (2/5) - 0$$

双対定理



定理2.3:

主問題または双対問題が最適解をもつ

⇒ 他方も最適解をもち、かつ最適値が一致する

証明 → 後日

主問題と双対問題の答えの組合せ



			双対問題		
			実行可能		実行
			最適解	非有界	不可能
主問題	実行可能	最適解	〇 (双対定理)	× (系2. 1)	× (双対定理)
		非有界	× (系2. 1)	× (系2. 1)	O (系2. 1)
	実行不可能		× (双対定理)	O (系2. 1)	O

今週のレポート問題

- 80ページ問2. 1
- 81ページ問2. 4
- 双対問題の双対問題が主問題に一致することを示せ.
- 81ページ問2.8(系2.2の証明)
- 次のような線形計画問題の例を示せ。
 - (1)主問題, 双対問題共に最適解をもつ
 - (2)主問題は非有界, 双対問題は実行不可能

締め切り 10月23日(木)

提出は授業開始後10分以内に.

それ以降は受け取りません.

情報科学研究科の私の研究室に持ってきてもOK.

※来週は休講です

